

新しい大阪へ

さらば維新政治



大阪市の住民投票で、賛成派の運動は巨額の資金を投じた組織的なものでした。一方、反対派の運動は、政党も動いていませんが、最終的には未組

思想家、神戸女学院大名誉教授 内田樹さん [上]

織の市民たちの手作りの運動が大きくなるに連れて過半数を制した。運動期間がもっと長かったら反対票はさらに増えていたでしょう。

土地の求心力

維新が掲げていたのはいわば「ファンタジー」でした。夢洲(ゆめしま)にカシノを誘致して、鉄道を通して、ホテルだのレストランだのハコモノを林立させればたちまち経済が浮揚すると

いう一獲千金の夢物語です。反対運動を突き動かし

たのは「自分たちが住んでいるまちのすがたを変えたくない」という思いでした。土地の持っている求心力への素朴な信頼です。明治以来、行政は

「どこに住んだって同じだろう」という生活者の実感を無視した机上の論です。でも、それが失敗したことは廃藩置県から150年たった今でも、

話題になることもない。出身を聞くと、「播州です」とか「但馬です」というふうに答える。

あまりに軽視

「大阪都」構想の区割りには明治の廃藩置県と官僚的発想という点では変わりません。要するに

「どこに住んだって同じだろう」という生活者の実感を無視した机上の論です。でも、それが失敗したことは廃藩置県から150年たった今でも、

近代行政は何百年もかけてゆっくり構築されてきた地域固有の文化的アイデンティティをあまりに軽視してきました。

「大阪都」構想は典型的です。だから、最後には「自分の足もとの土地との親密なつながりを保持して欲しい」という生活者の実感に敗れた。

生活者無視した発想

「大阪都」構想は典型的です。だから、最後には「自分の足もとの土地との親密なつながりを保持して欲しい」という生活者の実感に敗れた。

(つづく)

(聞き手 渡辺健)